

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	なし

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度第6回協議会議事録 ・2021年度第1回協議会議事録

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求
<p>現行の「教育目的」を「教育研究上の目的」に改めたうえで、毎年実施している、本学の使命・目的及び教育目的等の検証を行うこと。</p>

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：現行の「教育目的」を「教育研究上の目的」と改め、新たに「教育研究上の目的」を大学全体および各学部ごとに作成する。</p>
<p>実行開始： R4 年 3 月</p>

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	なし
1-2-⑤	a	なし

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	・2020年度第6回協議会議事録 ・2021年度第1回協議会議事録
1-2-⑤	a	・2021年度第1回協議会議事録

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求
教育組織将来構想検討会において、教育学科（薬学科）の定員充足に向けた改革案を示すこと。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：教育組織将来構想検討会においては、これまで主に副専攻制度に関する議論を進めてきた。ところが、受験生の減少に歯止めがかからず、入学者が教育学科は7割、薬学科は9割に止まっているため、学科内で定員充足に向けた取組を取りまとめ、教育組織将来構想検討会へ改革案を提示する。なお、今後については、定員振替や改組転換等を視野に入れた検討を始める</p> <p>実行開始：2021年11月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-1-①	a	協議会において、各学部のアドミッション・ポリシーの見直しを行い、修正を行っている。アドミッション・ポリシーは、「ホームページ」「大学案内」「入試ガイド」「入学試験要項」学部ごとの「入試パンフレット」「大学院パンフレット」に明記し、高等学校訪問、入試説明会、オープンキャンパスにおいて周知している。令和3(2021)年度も、webも活用し、動画配信等での周知を図っている。
2-1-②	a	アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜は、入試実行委員会を中心に、A0入試委員会、スポーツ推薦入試委員会などで公正かつ妥当に運用・実施している。令和元(2019)年度入試の検証については、GPAと学籍異動をクロス集計したものをを用いて、入試広報委員会において検証を行った。令和2(2020)年度入試の検証については、GPAと学籍異動をクロス集計したものをを用いて、7月末までに入試広報委員会において検証を行い、以降、同様のサイクル(7月末)にて検証を行う。社会人基礎力測定テスト(PROG)の結果を用いた検証については、教育学修支援センターと連携して検討する。
2-1-③	a	学部入試に関しては、教育学部、薬学部で定員の適切な確保ができなかった。令和4(2022)年度入試においては、指定校の追加と基準の見直し、薬学部での新しい判定方式(高得点科目重視方式)の導入によって、定員確保を行う。オープンキャンパスの参加者、出願数の増加をめざして、SNSを積極的に活用した広報活動を充実する。大学院文学研究科、薬学研究科においては定員の確保ができなかった。この件について、大学院研究科委員会とともに定員確保に向けての方策を検討し、その方針にもとづいて、広報活動、入学試験を行い、定員の確保を行う。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-1-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度大阪大谷大学 大学案内 2021年度大阪大谷大学 入試ガイド 2020年度大阪大谷大学 入学試験要項 (公募制推薦入試、一般入試、センター試験利用入試) 2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット(文学研究科、薬学研究科) 2021年度大阪大谷大学 文学部パンフレット 2021年度大阪大谷大学 教育学部パンフレット 2021年度大阪大谷大学 人間社会学部パンフレット 2021年度大阪大谷大学 薬学部パンフレット
2-1-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 大阪大谷大学A0入試担当委員会規程 大阪大谷大学スポーツ推薦委員会規程 大阪大谷大学入試実行委員会規程 2018年度入試広報委員会議事録(H30/10/10)
2-1-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 大阪大谷大学(学部) 2020年度入試概況 令和2年度 大阪大谷大学 入試結果 2021年度大阪大谷大学 入試ガイド

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-1-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度大阪大谷大学 大学案内 2022年度大阪大谷大学 入試ガイド 2021年度大阪大谷大学 入学試験要項 (公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト試験利用入試) 2022年度大阪大谷大学 A0入試パンフレット 2022年度大阪大谷大学 スポーツA0入試パンフレット 2021年度大阪大谷大学大学院 大学院入学試験要項(文学研究科、薬学研究科) (一般入試、社会人入試) 2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット(文学研究科、薬学研究科) 2022年度大阪大谷大学 文学部パンフレット 2022年度大阪大谷大学 教育学部パンフレット 2022年度大阪大谷大学 人間社会学部パンフレット 2022年度大阪大谷大学 薬学部パンフレット
2-1-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 大阪大谷大学A0入試担当委員会規程 大阪大谷大学スポーツ推薦委員会規程 大阪大谷大学入試実行委員会規程

		・2020年度入試広報委員会議事録（6月10日、7月8日・15日電子会議分）
2-1-③	a	・大阪大谷大学（学部） 2021年度入試概況 ・令和3年度 大阪大谷大学 入試結果 ・2022年度大阪大谷大学 入試ガイド ・2021年度入試広報委員会議事録（4月8日実施分）

II. 学長からの改善要求 <2020年度>

学長からの改善要求

データに基づいた募集活動の再構築を行うこと。

なお、募集活動の方向性について、今年度中に推進委員会（協議会）に報告すること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画 <2020年度>

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

リクルートの協力で、接触→来校・出願に関する分析を実施し、接触から来校・出願の歩留まりが他校より低いことが明らかになった。来校・出願の歩留まりを高めることが優先課題だと考える。その課題に向けて、次の検討を行い、有効な募集活動を再構築する。

①有効な接触媒体の精選：業者、内容、方法

②広報物の見直し：電子情報の有効活用、在校生のメッセージをより強く出すなど

募集活動の方向性については、今年度中に推進委員会に報告する。

実行開始： 2020年10月（10月15日に入試広報課独自でリクルートと検討時間を取りました。ここを起点とすれば10月からとなります）

II. 学長からの改善要求 <2021年度>

学長からの改善要求

一般選抜入試について、調査書等を用いた学力の3要素を多面的・総合的に評価する入試に構築し直すこと。

一般選抜入試のどこかにおいて、教科・科目に限定されずに「思考力・判断力・表現力」を評価する総合的記述式問題を出題するように検討すること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画 <2021年度>

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

一般選抜入試において、学力の3要素を多面的・総合的に評価するために調査書の点数化を行う。対象となる入試、学部・学科、配点は検討中である。

教科・科目に限定されずに「思考力・判断力・表現力」を評価する総合的記述式問題については、一般後期日程において他科目との選択方式で検討中である。対象となる学部・学科については、2科目入試を実施している教育学部と薬学部について検討を進めている。

実行開始： 2021年10月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	<p>教育学修支援センターでは、今年度よりIR担当の特任講師を採用したが、依然としてFD担当専任教員の採用には至っていない。全国的に人材が枯渇していることもあり、今後は戦略の見直しも視野に入れて検討を行う。</p> <p>FAQサービスについては現時点で具体化していないが、昨年度に引き続き、LMS内に教員向けの遠隔授業に関するコースを立ち上げ、種々の対応を行なっている。</p> <p>PROGや学修行動調査の結果についても、個別最適な指導体制を構築すべく、昨年度までの取り組みを継続するほか、IR調査に関する計画・分析等の深度化を図るために、2021年4月よりIR委員会内に専門チームを設立したところである。</p> <p>ラーニングコモンズについては、図書館に確保している。2024年完成予定の図書館新館にもラーニングコモンズを設置することが検討されているため、現在図書館本館のラーニングコモンズは2023年度までの暫定措置である。また、ラーニングコモンズのさらなる充実のため、情報教育センター等に新たなラーニングコモンズの設置を検討中である。情報教室の機器等のリプレイスとも深く関連することから、関係部署及び各種委員会と連携し現有設備を確認中である。2021年度中に企画をまとめ、全学的に協議した後、2023年度予算に申請する予定である。</p>

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	・大阪大谷大学教育・学修支援センター規程

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	IR委員会(2021年4月28日)議事録 図書館にあるグループ学習室(ラーニングコモンズ)の写真 情報WGの報告書 ラーニングコモンズの候補場所一覧

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	<p>1) センター特任講師が実施しているACEプログラムは対面実施で始動したが、危機対策本部の方針を受け、オンライン開催に移行した。広報及び教材などはtani-WAのACEコースでアナウンス、また公開している。</p> <p>2) e-Learning登録率・利用率向上の一助としてWebフォルダにマニュアルを公開中、また、Portalから全学生に向けて情報発信を続けている。</p> <p>3) 2020年度から始まったキャリア開拓塾との連携でe-Learningプログラム学習を推進し、そのオリエンテーションはACEの事務スタッフが実施している。また、TOEICスコアが低迷している塾生に対しては、ACE運営委員が個別にカウンセリングを行ったり、ACE事務スタッフが適切な教材を薦めるなどの学修支援を行っている。</p> <p>特に、上記の1)、2)については、これまでも連携してきた教育学部学校教育専攻の基礎ゼミのプログラムとの連携を今年度はさらに強化していくことになった。また、1)～3)までの活動は、センター事務室スタッフが中心となって実施している。同時に、ACE運営委員を通じて、各学科会議などで積極的に広報してもらう方針をとっている。</p> <p>4) 1回生の英語学習成果を計るためのアチーブメントテストも2021年1月20日に実施済み、受験率、結果データを教授会で報告し、各自の成績はセンターから返却中である。2回生対象のアチーブメントテストについては、コロナ禍のため、2020年度から実施を見合わせているが、今後も費用対効果を考慮し実施する予定はない。</p> <p>5) 英会話サークル結成については、学生からの申し出が途絶えている。理由として、コロナ禍により登学できず、ACEでの学年を越えた交流が実現できなかったことや、当該学生たちが3回生となり教育実習などで多忙なためだと考えられる。今後も、学生側からこのような申し出があった場合は、ACEとして積極的に支援を行う予定である。</p> <p>6) 昨年度は実現できなかったが、対面での活動が復活し次第、English Caféでの学生との交流や教材室での貸出の様子を記録し、その動画をStreamで配信、より積極的な広報活動を行っていく予定である。</p>

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学英語教育センター規程 ・ACE LESSONSスケジュール_Moodle画面 ・e-Learningマニュアル ・2019アチーブメントテスト受験状況_教授会資料 (R2/03/04) ・2019アチーブメントテスト結果報告_教授会資料 (R2/03/04)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2021ACE LESSONS_tani-WA画面 ・2021ACE LESSONS スケジュール ・2021年度利用できるプログラムの案内 ・e-Learningマニュアル ・2020アチーブメントテスト受験状況_教授会資料 ・2020アチーブメントテスト結果報告_教授会資料

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	a	合理的配慮の必要な学生においては、個別支援部会を開催し、支援の検討・実施を行っている。入学前時期の相談・支援体制においては、オープンキャンパスでの修学相談、「大学生生活支援カード」の提出、入学前相談を実施している。教職員向けの研修においては、遠隔授業時の配慮学生への対応に関する研修会、2021年度は聴覚障がい学生数が増加することを受け、障がい学生への情報保障に関する研修を行った。今後も外部講師を招き、障がい学生をはじめ多様な背景を持つ学生への対応に関する研修の開催を検討している。サポート学生の情報保障支援活動においては、遠隔授業においても、音声認識ソフトUDトークを用いた情報保障活動、授業動画への字幕挿入を実施している。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度前期の配慮学生数・相談学生数一覧 ・障がい学生のための支援機器一覧（2020年度現在） ・遠隔情報保障対応件数（2020年度4月～6月） ・教職員向け研修「障がい学生への情報保障について考えよう！」案内チラシ

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮学生数（2021年度前期）・相談学生数（4月）一覧 ・障がい学生のための支援機器一覧（2021年度現在） ・情報保障対応件数（2021年度4月） ・学内研修「遠隔授業におけるユニバーサルデザイン研修会」案内チラシ ・学内研修「聴覚障がい学生に対する全学情報保障支援研修会」案内チラシ

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている / 前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている / " " : 計画進行中

C：満たしている / " " : 計画検討中

D：満たしていない / 認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
自己判定の留意点（下段）		判定	判定
2-2-②	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 b. オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。	C	B
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 c. 教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。	C	C
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 d. 中途退学、休学及び留年への対応策を行っているか。	C	B

2 自己点検・評価 <2020年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	b	アドバイザー制度については、外形的な制度はできており、今後はActive Academyにおける指導記録の分析を中心にして、その内実について調査を進め、SD研修などを通じて効果的な学修指導のあり方を検討する。 オフィスアワーは制度化されており、学生へも周知が行われているが、学生側・教員側双方の調査により、その実態を把握する。 授業評価アンケートについては、これまで紙媒体で無記名により行ってきた。ただ、記名式もしくはWeb方式を採用している大学も多く、コストの評価や他大学の状況を調査しながらWeb方式による実施も検討する。
	c	大学院生が少ない本学においてはTA制度の拡充は難しい面があるが、SA制度については、薬学部のみならず他学部においても検討していくべきと考える。ただし、SAが必要な授業科目のリストアップのほか、それぞれの授業科目の受講者が適正なものかどうかについても合わせて議論する。
	d	学期GPAや出席状況により学修指導が必要な学生を抽出し、適宜アドバイザーにより対応しながら、その結果を学科内で共有するしくみをとっている。今後は出席状況の正確な把握が行えるよう、学務システムの活用を積極的に活用し、随時リアルタイムに出欠状況が把握できるような体制をとる。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	b	アドバイザー制度については、外形的な制度はできている。Active Academyにおける指導記録（成績不良の学生や学籍異動相談など）や各学科所管の指導記録は共通に実施されている。ただし、記録の内容や指導頻度については、教員や学科間でも差異があり、SD研修などを通じて効果的な学修指導のあり方の検討は継続していく。 オフィスアワーは制度化されており、学生へも周知が行われている。今後は、オフィスアワーの回数や内容の把握に努めていく。 授業評価アンケートについては、これまで紙媒体で無記名により行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2(2020)年度からWeb方式で実施することになった。Web方式により、学生の回答率が減少したが、回答率を上げる方策については教育・学修支援センターと共に検討を進めたい。なお、令和3(2021)年度においてもWeb方式で実施することが決定している。
	c	大学院生が少ない本学においてはTA制度の拡充は難しい面があるが、SA制度については薬学部のみならず他学部においても検討していくべきと考える。ただし、新型コロナウイルス感染拡大時には、オンライン授業も増えることから、SA制度の検討は進んでいない。アフターコロナ時代の授業のあり方も視野に、SAの役割と必要な授業科目について検討を継続していく。
	d	中途退学、休学及び留年への対応策として学生の受講状況の把握に努め、Active Academyへの学習指導記録を徹底した。具体的には、オンライン授業での授業参加を確認する一助としてtani-WAへのアクセス回数データを集計し各学科へ配信し、学期GPAや出席状況により学修指導が必要な学生を抽出し、適宜アドバイザーにより対応しながら、その結果を記録し共有している。今後は授業実施方法を問わず、出席状況の正確な把握が行えるよう、学務システムを積極的に活用し、随時リアルタイムに出欠状況が把握できるような体制をとるためのシステム導入やそれに関わる予算措置について継続的に検討していく。 また、学生指導については、学修行動調査や1・3年生のアセスメントテストの結果に基づく面談など、面談回数が増え、単発的な情報に基づく面談とならないよう、成績不良や長欠の情報も加え、多面的な情報に基づき、きめ細かな学生指導を行うよう、また指導記録の徹底、関係所管との情報共有を依頼していく。退学予備軍になる学生の抽出や学修支援体制の強化を進めていくにあたっては、今後も教育・学修支援センターと連携し、体制を検討していく。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	b	・大学ホームページ「オフィス・アワーについて」 ・シラバス「OA演習」
	c	・大阪大谷大学ティーチング・アシスタント規程 ・大阪大谷大学薬学部スチューデント・アシスタント規程
	d	・Active Academy 指導記録

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-2-②	b	・大学ホームページ「オフィス・アワーについて」 ・シラバス「OA演習」
	c	・大阪大谷大学ティーチング・アシスタント規程 ・大阪大谷大学薬学部スチューデント・アシスタント規程
	d	・Active Academy 指導記録 ・tani-WAアクセス回数資料

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

学生の学修成果や学務システムを活用し、学部（学科）で退学者等の減少に向けた取り組みを検討し、それをVISION2025に反映させること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

学部（学科）で退学者等の減少に向けた取り組みについては、すでにVISION 2025の後半期の基本方針「心身に悩みを抱える学生に対する相談体制の充実を図る。」において、各学部・学科によるアクションプラン策定作業が進められている。教務部としては、上記のアクションプラン策定の進捗状況によって、成績やGPA等の数値的な学習状況以外にも、質的な情報となる学生の学修成果や学務システムの情報を提供する等、各学部・学科と連携を図りながら、退学者等の減少に向けた取り組みを進める。

実行開始：2021年4月

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	・2019年度 学生満足度調査 結果報告 (全体)

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	2020年度学生満足度調査結果報告(全体)

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-6-①	a	昨年度に引き続き、授業評価アンケートについては、数的データ及び自由記述から、それぞれの授業科目の特性や学科ごとに傾向をつかみ、学修支援の必要な学生数および具体的な学習支援の方法について検討する。同アンケートの結果に基づき、各教員に担当科目について自己評価を実施し、アンケート結果および自己評価の結果から全体的な傾向を分析し、どのような学修支援が必要なのかを全学的に周知する機会を設けることを検討する。さらに、授業評価アンケートの各項目のデータを検証し、FD部会において、学修支援の必要な学生や授業改善に向けて必要な項目の見直しを進め、令和4年度の授業評価アンケート項目を決定していく。新型コロナウイルス感染拡大により、授業評価アンケートがWeb方式になったため、回答率が下がったことにより、これまでの回答内容と差異が生じている可能性がある。今後は、授業評価アンケートに限らず、本学のIRデータを駆使する必要があるとあり、令和3(2021)年度は教育・学修支援センターと共に、根拠となるデータの抽出や学修支援内容や方法について検討し、各学科・専攻へ支援協力の要請を行う。また、学生教育改善会議においては、これまでの学生への授業評価アンケート時の質問内容や対面・遠隔授業における必要な支援策などのアイデアを学生から出してもらえるように、会の運営方法や質問項目を検討していく。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-6-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学 学生教育改善会議要項 ・大学ホームページ「学生による授業評価に関する集計結果報告」 ・大学のWebポータルサイト「Active Academy」 「学生による授業評価および施設に関する改善報告」

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
2-6-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大谷大学 学生教育改善会議実施要項 ・学生教育改善会議まとめ ・大学ホームページ「学生による授業評価に関する集計結果報告(全体)」 ・大学のWebポータルサイト「Active Academy」 「学生による授業評価(科目別)」 ・授業評価実施要項

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-1-①	a	2020年度と同様
3-1-②	a	令和2年(2020)年度卒業生に対して、ディプロマ・ポリシーの項目ごとの到達度について、ディプロマ・サプレメントという形で学生にフィードバックを行った。 文学部・教育学部・人間社会学部を対象に、履修科目・単位数だけでなくGPAを活用した2回生から3回生への進級基準を設け、この進級基準を令和3年(2021)年度入学生より適用し、全学部において進級基準を設置した。
3-1-③	a	令和2(2020)年度のシラバスより到達目標および評価基準において、ディプロマ・ポリシーに即した記述を設けるように依頼したが、その内容や書式についてはばらつきがあるため、今後はルーブリックを用いた質的評価の実施につなげるよう、表記方法について今後検討し、学内での統一を図っていきたい。 GPAによる進級基準については、制度導入後に留年した学生についての分析を行う。 GPAによる退学勧告制度については、退学勧告に至るまでの学修指導およびその後の行動や指導(就学継続か退学か、就学継続の場合にはその後のフォロー体制など)について分析を行う。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-1-①	a ・大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」 ・各学科発行「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-1-②	a ・シラバス作成の手引き ・シラバスに係るFD研修会開催案内(専任教員対象) ・2020年度教務関係事項説明会・FD研修会および懇親会の開催案内(非常勤講師対象) ・大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第34条第4項 ・大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第17条第4項
3-1-③	a ・シラバス作成の手引き

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-1-①	a ・大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」 ・各学科発行「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-1-②	a ・シラバス作成の手引き ・シラバスに係るFD研修会開催案内(専任教員対象) ・2021年度教務関係事項説明会・FD研修会および懇親会の開催案内(非常勤講師対象) ・大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第42条の2・第42条の3 ・大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第29条の2・第29条の3 ・大阪大谷大学GPA制度に関する要項
3-1-③	a ・シラバス作成の手引き

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

学校教育法施行規則の一部改正(R2.4.1施行)への対応及び認証評価への対策として、令和4年4月までには、両研究科における成績評価基準及び学位論文に係る評価に当たっての基準を策定し、大学ホームページに公表すること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容: 両研究科委員会にて成績評価基準および学位論文に係る評価に当たっての基準を検討し、次年度より大学ホームページに公表できるよう、各基準の策定を進める。

実行開始: 2022年 4月

	b	シラバスについては、到達目標および評価基準においてディプロマ・ポリシーと関連づけた記述を依頼している。ただ、その内容が必ずしも統一がとれたものにはなっていない。その記述方法についてより周知徹底を図り、各授業科目のルーブリックによる質的評価、および総合的な学修成果の明示につなげられるようにする。
	c	特になし
3-2-④	a	共通教育科目を偏りなく配置することにより適切な教養教育が実施できている。なお、専門教育科目の一部を他学科の共通教育科目として開放している点について教務委員会で議論を行なったが、①教養教育の幅広さを維持するには不可欠である、②共通教育科目への開放により専門性が薄まるわけではないとの理由から、今後も継続することになった。
3-2-⑤	a	アクティブラーニングをテーマとしたFD研修、もしくは授業参観を実施したい。ただし、今年度それが実施できるかどうか不透明である。
	b	特になし

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-①	a	特になし
3-2-②	a	特になし
3-2-③	a	現時点では、カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラム体制が整備されていると考えられるが、今後は、各学科において現状のカリキュラムを検証する際には、学修成果やIR情報に基づく検証を踏まえたカリキュラム変更の必要性を教務委員会で通達した。 一方、学科間の教育課程の連携（主専攻・副専攻制度、学科組織とは異なる学位プログラムの創設など）については、令和2(2020)年度に教育学修支援センターに設置した横断的教育推進部会でその可能性について議論を行って以降、令和3(2021)年度は教育組織将来構想検討会において具体的な議論が始められている。
	b	シラバスについては、到達目標および評価基準においてディプロマ・ポリシーと関連づけた記述を依頼している。ただ、その内容が必ずしも統一がとれたものにはなっていない。令和3(2021)年度も、その記述方法についてより周知徹底を図り、各授業科目のルーブリックによる質的評価、および総合的な学修成果の明示につなげられるようにする。
	c	特になし
3-2-④	a	共通教育科目を偏りなく配置することにより適切な教養教育が実施できているが、新型コロナウイルスの影響で大学教育の現場にはDXの波が押し寄せており、本学も、文科省が募集している「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」への応募も視野に入れ、数理・データサイエンスに関する共通教育科目の必修科目設置を検討する。また、共通教育科目の必修科目の単位数の妥当性を検証し、あわせて卒業に関わる共通教育科目の単位数の増減、キャリア教育科目等の共通教育科目への単位数参入方法、外国語科目の卒業単位数や履修方法についても検討を行う。
3-2-⑤	a	アクティブラーニングをテーマとしたFD研修、もしくは授業参観を実施したい。ただし、令和2(2020)年度から引き続き、令和3(2021)年度も実施できるか不透明である。
	b	特になし

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-①	a	・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」 ・各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-2-②	a	・大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」 ・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」
3-2-③	a	・大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 ・大学ホームページ「カリキュラムツリー」 ・2020年度横断的教育推進部会 議事録 (R2/04/22)
	b	・シラバス作成の手引き ・シラバスチェックシート

	c	<ul style="list-style-type: none"> 各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」 大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学CAP制に関する要項(平成31年4月1日改正)
3-2-④	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 大学ホームページ「カリキュラムツリー」 カリキュラム表(2020年度)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> シラバス「OA演習」
	b	<ul style="list-style-type: none"> FD部会要項 FD講演会・研修会案内

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」 各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」 大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 大学ホームページ「カリキュラムツリー」 2021年度定員振替を含む副専攻制等の検討会議事録（R3/04/26）
	b	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成の手引き シラバスチェックシート
	c	<ul style="list-style-type: none"> 各学科「学習マニュアル」「履修マニュアル」 大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学薬学部授業科目履修規程 第4条第2項 大阪大谷大学CAP制に関する要項
3-2-④	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「各学科カリキュラムマップ&科目ナンバリング」 大学ホームページ「カリキュラムツリー」 カリキュラム表(2021年度)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> シラバス「OA演習」
	b	<ul style="list-style-type: none"> FD部会要項 FD講演会・研修会案内

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

3-2-⑤	a	現状において行っているオンライン授業を通して、随時改善を図っている。より効果的な方法について、学部で意見を共有する場を検討中。 歴史文化学科と合同で、令和2（2020）年9月に文学部FD研修会を開催すべく準備を進めている。また、図書館コース・日本語教育コースの科目の中で協働的学びの実践が可能となる場の設定を検討中である。
	b	令和元（2019）年10月の合同学科会議にて、FD委員会および初年次教育検討委員会を設置することを決議した。 FD委員会については今夏に、初年次教育検討委員会については令和2（2020）年度末に報告書を作成する方向で進めている。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	本学科では、初年次には「日本語学入門」、「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」、「中国文学入門」「日本文学講読Ⅰ～Ⅴ」、「日本語学概論α」「日本語学概論β」を設置し、日本語学、日本文学および関連領域に関する基礎から専門にわたる知識を修得させている。これにより、日本文化を担う幅広い文学的素養を身につけ4年間の学修に向かう基盤作りとしている。また、1年次の「文章表現A・B」から始まり、2年次の「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」、3年次の「ゼミナールⅠ」、そして4年次の「ゼミナールⅡ」といった段階的、かつ、実践的なカリキュラムを設定し、卒業年次における「卒業研究」に至るまで、体系的な教育課程を編成し、演習形式を用いた問題解決能力の育成を行なっている。また、学生各自の関心に合わせて複数のコースを設置し、卒業後進路等へ向けた学びの場を提供している。令和3年度入学生からは、「日本語教育コース」のさらなる充実を図り、履修科目を再編した。また、令和4（2022）年度入学生からの初年次教育改編に向けた検討を進めている。
	c	平成30（2018）年度入学生からは、令和元（2019）年度より、GPAの数値が3.2以上の学生に対して、上限単位数の緩和がなされた。令和2（2020）年度の結果、1回生は15名（26%）、2回生は14名（25%）、3回生は12名（24%）の学生が対象となった（回生は令和2（2020）年度時点、割合は当該年次の学科総数に対して）。 また、本学科では、1・2年次配当の「日本語学入門」・「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」・「中国文学入門」・「日本文学講読Ⅰ～Ⅴ」・「日本語学概論α・β」・「文章表現A・B」・「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」のうち、5科目10単位を修得していなければ、3年次配当の「ゼミナールⅠ」は履修できないとする制限を設けている。令和3（2021）年度から導入される進級制度にも、この基準で対応していく予定である。また、4年次配当の「ゼミナールⅡ」に関しても、「ゼミナールⅠ」を修得していなければ履修できないとする制限を設けている。
3-2-⑤	a	現状において行っているオンライン授業を通して、随時改善を図っている。より効果的な方法について、歴史文化学科と合同で、令和2（2020）年9月2日に外部講師を招聘し、本学情報教室を会場とした「オンデマンド授業としてのコンテンツ内容の充実に向けて」と題する文学部FD研修会を開催し知見を深めると同時に学部内共通認識の場を持った。令和3（2021）年度も9月にも開催すべく、準備を進めている。また、図書館コース・日本語教育コースの科目の中で協働的学びの実践が可能となる場の設定を図っているが、コロナ禍のため引き続き検討中の状態となっている。
	b	令和元（2019）年10月の合同学科会議での決議に基づき、文学部FD委員会を令和2（2020）年度に設置した。文学部FD委員会では、文学部FD研修会の開催に向けて検討し実行した。また、初年次教育の令和3（2021）年度以降の方向性については、令和2（2020）年10月の学科会議の場において検討した。なお、今後、初年次教育における課題等を検討する場として、初年次教育検討委員会を設置した。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 日本語日本文学科】 ・大学ホームページ「（日本語日本文学科）カリキュラム」 ・日本語日本文学科学習マニュアル
	c	・2020年度教授会 資料（R2/04/15）（2019年度累積GPA3.2以上該当者数） ・日本語日本文学科学習マニュアル
3-2-⑤	a	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録（R1/10/16）
	b	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録（R1/10/16）

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none">各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 日本語日本文学科】大学ホームページ「日本語日本文学科」大学ホームページ「(日本語日本文学科) カリキュラム」日本語日本文科学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none">2021年度教授会 資料 (R3/04/14) (2020年度累積GPA3.2以上該当者数)日本語日本文科学習マニュアル令和3(2021)年3月1日協議会承認 授業科目履修規程新旧対照表
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none">文学部FD開催の案内業者からの資料送信案内業者からの研修動画閲覧のお知らせ
	b	<ul style="list-style-type: none">2020年7月1日第1回文学部FD委員会議事録2020年10月7日日本語日本文科学科会議議事録

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

	b	令和元（2019）年10月の合同学科会議にて、FD委員会および初年次教育検討委員会を設置することを決議した。 FD委員会については今夏に、初年次教育検討委員会については令和2（2020）年度末に報告書を作成する方向で進めている。
--	---	---

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	本学科では令和2（2020）より、既存の3領域（歴史学、美術史学、考古学の3領域）を「基幹コース」とし、新たに「選択コース」（博物館・美術館、社会科教育、歴史観光の3コース）を加えた。歴史文化学からなる専門教育科目の履修を初年次から行い、「基礎ゼミ1」「歴史学入門」「美術史学入門」「考古学入門」から始まり、卒業年次における「ゼミナール2」「卒業論文」に至るまで、体系的な教育課程を編成している。
	c	平成30（2018）年度入学生からは、令和元（2019）年度より、GPAの数値が3.2以上の学生に対して、上限単位数の緩和がなされた。 令和2（2020）年度の結果、1回生は16名（29%）、2回生は9名（17%）、3回生は5名（9%）の学生が対象となった（回生は令和2（2020）年度時点、割合は当該年次の学科総数に対して）。 「ゼミナール1A」（3年次前期）「ゼミナール1B」（3年次後期）「ゼミナール2A」（4年次前期）「ゼミナール2B」（4年次後期）については、歴史文化学の基礎知識を修得した上で、自らの研究課題を見出し、その解決に必要な情報（史資料）を取捨選択し、それらを論理的に分析・思考する能力（問題解決能力）を必要とする科目であるため、1・2年次配当の共通教育科目および専門教育科目のうち、52単位を修得していることを必須とし、不足の場合は履修制限を設け段階をふまえた適切な学びの修得と実質を保っている。 令和3年度からはGPAに言及した進級判定制度が設けられる。歴史文化学科では2回生から3回生への進級に対して①累積GPA0.67未満、かつ②学科所定の科目（歴史学入門、美術史学入門、考古学入門）全ての単位が未履修の場合は留年とする。
3-2-⑤	a	「基礎ゼミ1・2」や「ゼミナール1・2」等の授業では文献や史資料を読み解き、各自でレジュメやレポートを作成し、自ら発表・報告を行い、教員と学生、学生相互でディスカッションを行っている。寄せられた意見を踏まえて各自作成した文書の修正や必要な史資料の収集・作成が行える実践的な力を、段階的に向上させる学びとなっている。 また、現状において行っている遠隔授業の内容充実を図るために、日本語日本文学科と合同で、令和2（2020）年9月2日（水）に文学部FD研修会を外部から講師を招き、本学情報教室を会場として「オンデマンド授業としてのコンテンツ内容の充実に向けて」と題して開催し、学部で意見を共有する場を設けた。令和3（2021）年度も9月に開催すべく準備を進めている。
	b	令和2年度より、日本語日本文学科と合同で行う文学部FD委員会を設置と、歴史文化学科の初年次教育検討委員会を設置した。文学部FD委員会では、文学部FD研修会の開催に向けて検討し実行した。歴史文化学科の初年次教育検討委員会では、初年次教育である「フレッシュャーズ・ミーティング」「基礎ゼミ1」「歴史文化フィールドワーク」「歴史学入門」「美術史学入門」「考古学入門」の検討を行った。また共通教材として「歴史文化フィールドワークA」「歴史文化フィールドワークB」の制作を行った。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 歴史文化学科】 大学ホームページ「歴史文化学科」 大学ホームページ「（歴史文化学科）カリキュラム」 歴史文化科学学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度教授会 資料（R2/04/15）（2019年度累積GPA3.2以上該当者数） 歴史文化科学学習マニュアル 2019年度大阪大谷大学便覧
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録（R1/10/16） シラバス「基礎ゼミ1A」「基礎ゼミ1B」「基礎ゼミ2A」「基礎ゼミ2B」「ゼミナール1A」「ゼミナール1B」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録（R1/10/16）

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none">各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学部 歴史文化学科】大学ホームページ「歴史文化学科」大学ホームページ「(歴史文化学科) カリキュラム」歴史文化学科学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none">2020年度教授会 資料 (R3/04/14) (2020年度累積GPA3.2以上該当者数)歴史文化学科学習マニュアル令和3年3月1日協議会承認 授業科目履修規程新旧対照表2020年度歴史文化学科会議 議事録 (R2/10/7、R2/12/9)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none">シラバス「基礎ゼミ1A」「基礎ゼミ1B」「基礎ゼミ2A」「基礎ゼミ2B」「ゼミナール1A」「ゼミナール1B」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」文学部FD開催の案内業者からの資料送信案内業者からの研修動画閲覧のお知らせ
	b	<ul style="list-style-type: none">2020年度歴史文化学科会議 議事録 (R2/05/27、R2/10/7)2020年度歴史文化学科初年次教育検討委員会議事録 (R2/8/22)2020年度 文学部合同学科会議 議事録 (R2/7/1)共通教材「歴史文化フィールドワークA」「歴史文化フィールドワークB」

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	教育学部自己点検・評価委員会
------------	----------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／　　　　　　　　　　　　　　　：計画進行中

C：満たしている／　　　　　　　　　　　　　　　：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2020年度	2021年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 a.カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。	A	A
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。	B	A
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施 a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。	B	B
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施 b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。	C	A

2 自己点検・評価

<2020年度>

No.	点 留 意	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	教育課程については、令和元（2019）年度から大きな変更点もないことから、従来どおり、カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施できている。また、幼児教育専攻では「幼児教育専攻ナビゲーション」、学校教育専攻、特別支援教育専攻では、「学習マニュアル」を用いて、カリキュラムの構造やどのような目的のためにどのような科目が設置されているのかを説明しており、初年次の履修指導の際に説明している。
	c	専攻毎に保育士資格や教育職員免許状（幼稚園教諭 1 種、小学校教諭 1種、中学校教諭 1 種「国語」「英語」、高等学校教諭 1 種「国語」「英語」、特別支援学校教諭1種）取得のための科目、保育・教育者としてのピアノ技術の向上のための科目等において、履修制限を設けて適切な学び修得と実質を保っている。

3-2-⑤	a	<p>幼児教育専攻では、2年次からコースごとに実践現場と連携した教育を4年次まで継続的に実施している。基礎ゼミⅡではグループで討議・企画・現場との調整・実践・振り返りという経験を学年に応じた内容で継続している。最終的には、4年次において「保育実践演習」という授業ですべての実践プロセスを履修者だけで行うところまでいく。また、各コースの専門科目は実践的・体験的内容が多く、グループ討議も多い。これらの実践内容は大学ホームページに随時アップしている。</p> <p>学校教育専攻では、「教科専門」や「教育学分野の専門」のすべての授業構成において、学生同士が対話的に学ぶアクティブ・ラーニングが組み込まれている。例えば、現代教育特論3(学校教育)の授業では、日本の学校教育の在り方を考えることを目的に、学際的な内容を講義と資料で問題提起し、日本の教育と諸外国の教育を対比させるディスカッションやプレゼンテーションによるアクティブ・ラーニングを多用し、学生が問題意識を高め、能動的に学ぶ授業を展開・工夫している。</p> <p>特別支援教育専攻でも多くの授業でアクティブ・ラーニング的要素を取り入れているが、特に、「特別支援教育指導法演習Ⅰ・Ⅱ(通称:きり教室)」では、発達障がい等の子どもとその保護者の授業協力を得て、学生2名が支援チームとなって一人の子どもを担当し、授業の中で支援実習している。支援を進めるにあたり、子どもの実態把握や支援の目標・内容、支援の順序、使用する教材等を記した個別の支援計画を作成し、その計画に基づいて実践・評価するまでをチームで責任を持って取り組んでいる。その経過の中では様々な課題に直面し、その問題解決に向けてチームで協議したり、相談しながら進めていくことになる。このプロセスは、アクティブ・ラーニングそのものであり、理論と実践をつなぐ学びとなっている。</p>
	b	<p>従来から各専攻会議において、授業での困りごとやどのような工夫をしているか、気になる学生の情報等を共有し、専攻としての授業の工夫や改善に努めてきたが、学部として教授方法の改善を進めるための組織体制はなかったため、学部としての体制はまだ整っていない。令和2(2020)年度には学部にFD委員会組織を早急に立ち上げ、教育学部独自のFDを令和2(2020)年度から実施する。</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	<p>教育課程については、令和元(2019)年度から大きな変更点はなく、従来どおり、カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施できている。また、幼児教育専攻では「幼児教育専攻ナビゲーション」、学校教育専攻、特別支援教育専攻では、「学習マニュアル」を用いて、カリキュラムの構造やどのような目的のためにどのような科目が設置されているのかを説明しており、初年次の履修指導の際に説明している。</p>
	c	<p>専攻毎に保育士資格や教育職員免許状(幼稚園教諭1種、小学校教諭1種、中学校教諭1種「国語」「英語」、高等学校教諭1種「国語」「英語」、特別支援学校教諭1種)取得のための科目、保育・教育者としてのピアノ技術の向上のための科目等において、履修制限を設けて適切な学び修得と実質を保っている。令和3(2021)年度からは、GPAに言及した進級判定制度を設けて、この基準によって対応していく。</p>
3-2-⑤	a	<p>幼児教育専攻では、2年次からコースごとに実践現場と連携した教育を4年次まで継続的に実施している。基礎ゼミⅡではグループで討議・企画・現場との調整・実践・振り返りという経験を学年に応じた内容で継続している。最終的には、4年次において「保育実践演習」という授業ですべての実践プロセスを履修者だけで行うところまでいく。また、各コースの専門科目は実践的・体験的内容が多く、グループ討議も多い。これらの実践内容は大学ホームページに随時アップしている。</p> <p>学校教育専攻では、「教科専門」や「教育学分野の専門」のすべての授業構成において、学生同士が対話的に学ぶアクティブ・ラーニングが組み込まれている。例えば、授業実践特論(算数)の授業では、新学習指導要領において新しくプログラミング教育が導入されるにあたり、学生が自らプログラミングを体験して授業に活かすにはどのような観点が必要かを明らかにすることを目的に、学生同士でプログラミングをプレゼンテーションおよびディスカッションを活発に行いアクティブ・ラーニングを通して学生が問題意識を高め、能動的に学ぶ授業を展開・工夫している。</p> <p>特別支援教育専攻でも多くの授業でアクティブ・ラーニング的要素を取り入れているが、特に、「特別支援教育指導法演習Ⅰ・Ⅱ(通称:きり教室)」では、発達障がい等の子どもとその保護者の授業協力を得て、学生2名が支援チームとなって一人の子どもを担当し、授業の中で支援実習している。支援を進めるにあたり、子どもの実態把握や支援の目標・内容、支援の順序、使用する教材等を記した個別の支援計画を作成し、その計画に基づいて実践・評価するまでをチームで責任を持って取り組んでいる。その経過の中では様々な課題に直面し、その問題解決に向けてチームで協議したり、相談しながら進めていくことになる。このプロセスは、アクティブ・ラーニングそのものであり、理論と実践をつなぐ学びとなっている。</p>

b	<p>教育学部FD委員会組織を発足させ、令和2（2020）年10月より、月1回の教授会後に教育学部FD研修会を実施している（計5回実施）。講師は教育学部の教員が担当し（井上美智子「指導法の工夫等」（10/21）、笹川博司「担当科目を振り返って」（11/18）、金川廣一郎「意外と難しい言葉のきまり」（12/2）、大倉孝昭「個別学修支援を目指した工夫」（1/20）、竹本封由之進「図画工作教授法」（3/10））、教育方法や学生指導の工夫等を紹介し合い、意見交換しながら教授方法の改善に務めている。また、各専攻会議において、授業での問題点やどのような工夫をしているか、気になる学生の情報等を共有し、授業の工夫や改善を図っている。</p>
---	--

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【教育学部 教育学科】 ・幼児教育専攻ナビゲーション ・学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育専攻ナビゲーション ・学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス <ul style="list-style-type: none"> 幼児教育専攻「基礎ゼミⅡ」「保育実践演習A・B・C」 その他各コースの専門科目「遊び研究」「子どもと植物」 「子育て支援ゼミナール」 ・学校教育専攻「現代教育特論3（学校教育）」 ・特別支援教育専攻「特別支援教育指導法演習Ⅰ」「特別支援教育指導法演習Ⅱ」 <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ「教育学部 新着情報一覧」 ・Tani-WA掲載事項 特別支援教育の理論と実践をつなぐアクティブ・ラーニングによる授業実践（特別支援教育指導法演習の取組）
	b	なし

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【教育学部 教育学科】 ・幼児教育専攻ナビゲーション ・学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
	c	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育専攻ナビゲーション ・学校教育専攻及び特別支援教育専攻学習マニュアル
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス <ul style="list-style-type: none"> 幼児教育専攻「基礎ゼミⅡ」「保育実践演習A・B・C」 その他各コースの専門科目「遊び研究」「子どもと植物」 「子育て支援ゼミナール」 ・学校教育専攻「授業実践特論（算数）」資料 ・シラバス <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育専攻「特別支援教育指導法演習Ⅰ」「特別支援教育指導法演習Ⅱ」 <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ「教育学部 新着情報一覧」 ・tani-WA掲載事項 特別支援教育の理論と実践をつなぐアクティブ・ラーニングによる授業実践（特別支援教育指導法演習の取組）
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部FD研修会（計5回）の研修資料等

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

3-2-⑤	a	本学科では、体験的な学習プログラムを長い期間にわたって実践してきており、最近も、就活の早期化を含む、社会動向の変化にともなって、平成30（2018）年度からは「地域社会体験実習Ⅰ」（1年次通年）と「グローバル社会体験学習」（2年次通年）を、令和2（2020）年からは「社会研究実習」（2年次通年）を開講（「社会研究実習Ⅰ」「社会研究実習Ⅱ」を整理・閉講）するなど、現場に近いところでの体験的な学習プログラムを発展的に展開してきた。令和2（2020）年度には、さらに専門性を高め、あるいは、学際性を深める体験を提供するため、学科内にPBL開発・評価タスクフォースを設置し、令和2（2020）年度前半で企画概要をまとめ、令和2（2020）年度後半で具体的なプログラム開発・実施準備を進める。
	b	令和元（2019）年度は、学部独自のFD研修としてスポーツ健康学科が企画したアクティブ・ラーニングやチーム・ビルディングを活用した授業方法の研修に本学科教員も参加し、知見を高めた。その成果は、正課・正課外、たとえばフレッシュマンミーティングでも活用するなどしている。

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	<p>本学科の学びは、「各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部 人間社会学科】」に記載されているように、カリキュラム・ポリシーにしたがって、知識と関心・態度、スキルの均衡よい向上を目指すとともに、初年次から順次年次があがっていくなかで専門的な学びの内容を高度化させるように設計されている。このような、本学科の教育課程に関しては、概ね、その内容というよりも、本学科学生による深い理解と積極的な活用こそ課題が見られると認識している。</p> <p>そのような認識にもとづき、令和2（2020）年度は、4月初旬の「教務オリエンテーション」の開催や「履修マニュアル」の配布をつうじた説明というこれまでの方法に加えて、追加的な取組を検討した。結果、正課外の取組に加え、正課においても、具体的な科目を特定し、その授業時間も活用して説明を行なうこととした。</p> <p>そのため、令和3（2021）年度からは、後期に実施する本学科1年次の必修科目である「人間と社会B」のなかで、あらためて、カリキュラムの編成方針やその特徴について説明し、学生による、より主体的で戦略的な、学科教育課程の活用を促進する授業を行なうこととしている。</p> <p>なお、学修成果の把握については、別の箇所でも詳述するように、本学科では、学科の教育課程全体にとって一定の重要性をもつ科目を特定する、具体的には、社会研究実習において、学修成果を確認し、次年度における改善につなげているところである。</p> <p>また、コースの再編については、2020年度は、学科会議で繰り返し議論を重ねてきた。結果、現在の4コース体制は、本学科の学生募集状況を見ても、高校生のニーズに合致しており、また、近隣高校の生徒にも一定程度の認知を獲得していることから、当面、現行体制を継続していくこととなった。今後は、この過程で議論したコース強化策の実施に取り組んでいく予定である。</p>
	c	<p>全学的なCAP制の取り組みに加え、本学科としては、GPAを活用し、とくにGPA低位にある学生に対するゼミ教員による個別指導を定期的に行い、学生カルテを用いて情報共有しながら、学科組織としてきめ細やかな対応を行うシステムを構築し、運用中である。</p> <p>また、本学科においては、2020年度中に、進級判定について議論を行ない、2年次終了時において進級判定を行ない、①累積 GPA < 0.67 かつ ②学科所定の科目の単位が未履修であれば留年とするという制度を2021年度から導入することとした。今後も、このような新制度を活用して、学生の着実な学修行動をはかっていく。</p>
3-2-⑤	a	<p>本学科では、アクティブな学びを重視し、長い期間にわたって、また、スポーツ健康学科と連携して、社会研究実習担当者会議を設置し、組織的に、体験的な学習プログラムに取り組んできた。このような動きは、近年、就活の早期化を含む社会動向の変化にともなって、平成30（2018）年度からは「地域社会体験実習Ⅰ」（1年次通年）と「グローバル社会体験学習」（2年次通年）を、令和2（2020）年からは「社会研究実習」（2年次通年）を開講（「社会研究実習Ⅰ」「社会研究実習Ⅱ」を整理・閉講）するなど、発展的に展開してきているところである。</p> <p>このような実践を土台にしつつ、令和2（2020）年度は、さらに専門性を高め、あるいは、学際性を深める体験を提供することを目指し、強化策を検討することとした。結果、この年度には、学科戦略プロジェクトの一環として、学科内にPBL開発・評価タスクフォースを設置し、年度前半において企画概要をまとめ、年度後半では具体的なプログラム開発・実施準備を進めることができた。</p> <p>令和3（2021）年度以降は、前年度に行なわれた準備にしたがって、実際に、PBL導入を授業内で着実に行なっていく。また、こうした取組の成果を捉え、教訓を抽出するため、学長裁量経費による教育改革推進プロジェクトに申請したところ、採択となったので、スポーツ健康学科と連携しながら、この「PBLを含むアクティブ・ラーニング強化とそのインパクト」プロジェクトを予定どおりに遂行していく。</p>

	b	<p>人間社会学部では、これまでも、学生に対して、主体的・対話的で深い学びを提供するために、授業へのアクティブ・ラーニングの導入を組織的に進めてきた。そして、その取組の主要な柱の1つになっているのが、学部内にある2つの学科が連携して展開してきた学部FDの取組である。</p> <p>令和2（2020）年度においても、この学部FDの取組を継続し、1年次必修科目である「基礎ゼミⅠ」で導入し得るアクティブ・ラーニング教材を学部教員全員が参加して学ぶ機会を設けた。</p> <p>令和3（2021）年度は、このような学部FDでの学びを踏まえ、「基礎ゼミⅠ」の改善策について、同じく人間社会学科・スポーツ健康学科が連携し、両学科の初年次教育委員が合同で具体的な検討を行なっているところである。</p> <p>また、令和3（2021）年度以降も、人間社会学部を構成する2学科が連携して、学部FDに取り組み、それぞれの学科で行なっている教育活動の改善の基盤を構築・強化していく。</p>
--	---	---

3 エビデンス資料 ＜2020年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部 人間社会学科】 履修マニュアル(必修科目・選択科目) 履修マニュアル(履修モデル) シラバス「人間と社会B」 社会研究実習担当者会議議事録 (R2/02/26)
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (2019年度前期GPA1.5未満対象学生) 2019年度教授会議事録 (R2/03/11) (2019年度末退学勧告対象者・後期GPA1.5未満対象者) 学生カルテ
3-2-⑤	a	シラバス「地域社会体験実習Ⅰ」「グローバル社会体験学習」「社会研究実習」
	b	<ul style="list-style-type: none"> FD研修(大学ホームページ)、(報告書)、(行事関係伺書)、(伺書) フレッシュマンミーティングのプログラム

＜2021年度＞

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部 人間社会学科】 履修マニュアル(必修科目・選択科目) 履修マニュアル(履修モデル) 新入生対象 教務オリエンテーション資料 (R3/04/03) 2021年度「人間と社会B」シラバス 2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/12/2) (強化策) 2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/12/16) (強化策)
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度教授会議事録 (R2/09/16) (2020年度前期GPA1.5未満対象学生) 2020年度教授会議事録 (R3/03/03) (2020年度末退学勧告対象者・後期GPA1.5未満対象者) 学生カルテ (抜粋) 2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/09/16) (進級判定)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度「地域社会体験実習Ⅰ」シラバス 2021年度「グローバル社会体験学習」シラバス 2021年度「社会研究実習」シラバス 社会研究実習担当者会議議事録 (R3/02/24) PBLコンセプトペーパー (学科会議資料) (R2/07/29) 令和3年度 学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト計画書「PBLを含むアクティブ・ラーニング強化とそのインパクト」
	b	<ul style="list-style-type: none"> 人間社会学部 学部FD報告書 (合同学科会議資料) (R3/04/14) 初年次教育プログラム改善に関する会議の記録 (R3/01/06)

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	今後も実践的な指導力の養成に向けたカリキュラムを実施しさらに学生の指導力を強化するため、現2コース体制を3コース制へ移行し早い時期からそれぞれのコースで専門的に学べるような体制を整える準備を行っている。新コースそれぞれの取り組みは、「スポーツトレーナコース」(健康運動指導コース改名)では、これまでの健康運動の指導に加え、本格的なトレーニング指導が行える人材育成を目指し世界で通用するトレーナー資格であるCSCS(NSCA認定)の認定校となり、トレーナー育成に取り組む。「スポーツマネジメントコース」(新規)では、体育運営管理などの知識を身に付け、スポーツ関連企業などの就職を目指す。また、人間社会学科との連携事業である「公務員養成プログラム」を通し公務員、特に警察官・消防士の輩出を目指す。「スポーツ指導コース」では、ジュニアスポーツ指導員(日本スポーツ協会)資格が取得できるようにし、これまで弱点であった幼少期への指導力を養う。 また、「スポーツ指導方法演習」についても、これまでの3年間の成果をふまえてそれを基に学生が改良して取り組んでいる。このような継続的な指導により、指導者(健康運動指導など17.8%、教育など11.9%)を目指す学生が約3割存在する。 約5年前に設立したトレーニング研究会において早い段階での動機づけ、専門知識及びスキルの指導より、健康産業を目指す学生も増加傾向にある。(健康運動実践指導者2018年度10名、2019年度13名、2020年度17名、健康運動指導士2018年度5名、2019年度5名、2020年度10名) 令和3年度に入学した1回生が履修できるCSCS関連科目「スポーツ指導方法(トレーニング)」は、新設科目にも関わらず、関心が高く入学者の約8割が履修している。
	c	前年度同様、全学的なCAP制の取り組みに加え、学科としては、GPAの活用、履修指導、アドバイザー制度の活用している。また、成績不良、問題行動等個人指導した場合には、学生カルテを活用して情報を共有するなどきめ細かい対応を行っている。 また、令和3年入学生からは、進級制度として3年次に進級するためには、2年次終了時における累積GPAが0.67以上、または「人間と社会B」、「スポーツ健康学」を修得することが求められている。
3-2-⑤	a	平成30(2018)年度から実施している「スポーツ指導方法演習」において、コロナ禍であるが、それぞれのコースにおいて創意工夫し授業方法の改善として実践からの学びの充実を図っている。学科の教員の専門性を活かし、公開講座として「ロコモ予防に関する教室」「子どものための体操教室」なども、継続して学生が参加者支援を通して学ぶ機会を設けている。又「富田林市産官学医包括連携協定「TOMAS」」においても、学生が学びの実践の場とし社会貢献の機会にもなっている。
	b	特に新たな取り組みは実施していないが、令和元(2019)年度に学部FD活動としてスポーツ健康学科が企画し実施した「プロジェクトアドベンチャー」に関し、フレッシュャーズミーティング、基礎ゼミI、スポーツ健康学での活用を今後審議し実践に結びつける予定である。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【人間社会学部スポーツ健康学科】 スポーツ健康学科履修マニュアル(2つの指導コース) 大学ホームページ「スポーツ指導コース」 大学ホームページ「健康運動指導コース」 スポーツ健康学科履修マニュアル「スポーツ方法(マリンスポーツ)」 シラバス「スポーツ方法(マリンスポーツ)」 スポーツ健康学科履修マニュアル(アシスタントマネジャー) シラバス「クラブビジネス・マネジメント演習」 スポーツ健康学科履修マニュアル(初級障がい者スポーツ指導員) シラバス「障がい者スポーツ指導論」
	c	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録(R1/09/18)(2019年度前期GPA1.5未満対象学生) 2019年度教授会議事録(R2/02/19)(卒業式における学長表彰学生等) 2019年度教授会議事録(R2/03/11)(2019年度末退学勧告対象者・後期GPA1.5未満対象者) 2020年度教授会議事録(R2/04/15)(2019年度末時点の上限単位数緩和) 指導記録(学生個人)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「公開講座 ロコモ・メタボ予防」 大学ホームページ「公開講座 器械運動」 大学ホームページ「公開講座 ソフトボール」 シラバス「スポーツ指導方法演習」(2018~2020年度) スポーツ指導方法演習「ロコモ予防教室」 (大学ホームページ、ちらし、富田林市産官学医議事録、報告書) スポーツ指導方法演習「バレーボール」(報告書)

	b	<ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会(大学ホームページ、報告書、行事関係伺書、伺書) ・フレッシュマンミーティング(タイムテーブル)
--	---	---

<2021年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム(2022年度大学案内) ・3コース(2022年度大学案内) ・CSCS資格(履修マニュアル) ・公務員養成プログラム(在学生オリエンテーション) ・ジュニアスポーツ指導員(R2要項) ・2022年度人間社会学部パンフレット ・スポーツ指導方法演習(トレーニング)受講者名簿 ・健康運動実践指導者認定試験結果一覧(2018~2020) ・健康運動指導士認定試験受験者一覧(2018~2020)
	c	<ul style="list-style-type: none"> ・20200916教授会議事録(2020年度前期GPA1.5未満対象学生について) ・20200916教授会資料(2020年度前期GPA1.5未満対象学生について) ・20210224教授会議事録(学長表彰学生の選出について) ・学生カルテ(指導記録) ・20200715学科会議議事録 ・2021年度スポーツ健康学科履修マニュアル(pp22)
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導方法演習(HP) ・公開講座「ロコモ・メタボ予防教室」(HP) ・産官学医包括連携協定の取組み(HP) ・産官学医包括協定締結(HP) ・スポーツ指導方法演習(シラバス) ・公開講座「ソフトボール教室」(HP) ・介護予防のための産官学医包括連携協定(HP) ・産官学医包括連携協定(HP)
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズミーティング(アイスブレイク) ・フレッシュャーズミーティング(タイムテーブル) ・スポーツ健康学(2021年度シラバス)

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

	b	薬学部独自のFDへの取り組みについては、令和元（2019）年度、教務委員会主体で教員FDを5月と3月に実施し、教員の意識向上と教育手法の情報交換を行っている。今後も定期的実施する予定であり、改善が進められている。また、薬学教育支援・開発センターは、令和元（2019）年度、第4回日本薬学教育学会大会での研究成果発表や、複数のワークショップへの参加を通じて他大学の教員との意見交換を行い、新しい教育方法に関する情報の収集を行っている。また、センターで試行した教育法について、薬学部開催の2019年度第1回薬学部教員FDワークショップ委員会、全学開催のFD講演会「平成29年度・平成30年度教育改革推進プロジェクト事業報告会」にて、その教育手法や学修効果について、多くの教員に周知している。
--	---	---

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	2020年度と同様
	c	2020年度と同様
3-2-⑤	a	昨年度の課題であったアクティブ・ラーニングの推進状況の点検を今年度実施することを決定し、教務委員会（問題解決能力養成科目小委員会）が取りまとめて実施した。
	b	薬学部独自のFDへの取り組みについて、2020年度は9月に実施した保護者説明会において、教務委員長および国家試験対策担当教員による「本学の教育における取り組み」に関する講演を保護者とともに教員が視聴することで、意識の向上を図った。 また、薬学教育支援・開発センターでは、学会での研究成果発表やワークショップへの参加を通じて、他大学の教員との意見交換を行い、既存の教育方法の可能性の検討や、コロナ禍の中でも適用できる新しい教育方法に関する情報の収集を行った。また、これまでにセンターで取り組んだ教育法や、その学習効果について多くの教員に周知する一方、ICTを活用した授業法を本学「遠隔授業に関するFD研修会」で紹介することを通じ、学内の教育力の向上にも努めている。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	<ul style="list-style-type: none"> 各学科等の教育課程の体系的編成一覧【薬学部 薬学科】 平成30年度薬学教育評価・評価報告書（p1） 2018年度薬学部教務委員会 議事録（H30/07/18） 新カリキュラム原案（資料2） 薬学部学習マニュアル 科目年次配当表（p59～62）
	c	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究評価票（卒業研究発表評価票、卒業論文評価票、卒業研究評価票） 早期臨床体験、医療コミュニケーション演習Ⅱ評価票
3-2-⑤	a	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度薬学教育評価・評価報告書（p16） 2018年度薬学部教務委員会議事録（H30/11/21）
	b	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度薬学教育評価・評価報告書（p27） 大阪大谷大学紀要 2020年2月（p111～119） ：2019年度第1回薬学部教員FDワークショップ実施報告 2019年度教授会（R2/03/11）薬学部教務委員会報告（R2/03/04）報告事項4 第4回薬学教育学会 ワorkshop日程表・講演要旨 FD講習会（教育改革推進プロジェクト事業 報告会）案内

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	同上
	c	同上
3-2-⑤	a	2021年4月21日教務委員会議事録（抜粋）
	b	<ul style="list-style-type: none">・ 2020年7月15日教務委員会議事録（資料4） 保護者説明会案内状・ 第5回薬学教育学会 2020年9月 ワークショップ日程表・講演要旨・ 日本薬学会第141年会 2021年3月 講演要旨・ 薬学教育 2021年1月（p. 147-156）・ 薬学教育 2021年1月（p. 187-193）・ 薬学教育 2021年1月（p. 209-216）・ 第13回三重大学教養教育院FD研修会 2021年3月・ 大阪大谷大学紀要 2021年2月（p. 1-9）・ 大阪大谷大学紀要 2021年2月（p. 21-29）・ FD講習会 2021年2月案内・ FD講習会 2021年3月（遠隔授業に関するFD研修会）案内

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	カリキュラム・ポリシーに基づいて、科目の増加や再検討を行い、各分野・時代に目配りした十分な科目設定がなされている。 令和2（2020）年度から開講科目を大幅に増やし、教員は原則「演習」と「特殊研究」を担当することとしている。これによって、従来よりもカリキュラム・ポリシーに沿った科目体系となっている。
3-2-⑤	a	院生の主体的な取り組みを促し、十分なコミュニケーションに基づいて、アクティブ・ラーニングを始めとした授業内容の工夫や方法の検討が行われている。 「演習」「特殊研究」いずれも院生の主体的な取り組みが必須であり、アクティブ・ラーニングが実践されている。その中で、教員との対話も十分になされている。
	b	令和元（2019）年度に、教育方法改善の具体的な内容を検討する小委員会の設置を決定したが、まだ小委員会開催には至っていない。また、小委員会での議論に向けて、専攻内で検討委員会を開催し検討する予定であったが、これもまだ行われていない。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】（国語学国文学専攻） ・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 ・2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット（文学研究科）
3-2-⑤	a	・2020年度大学院シラバス
	b	・2019年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）（小委員会設置を決めたもの）

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】（国語学国文学専攻） ・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 ・2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット（文学研究科）
3-2-⑤	a	・2021年度大学院シラバス
	b	・2019年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）小委員会設置について。

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	各専攻共に、カリキュラム・ポリシーに基づいて、科目の増加や再検討を行い、各分野に目配りした十分な科目設定がなされている。また、大学院文学研究科全体としても情報共有を行い、各専攻の独自性を生かしつつ、大学院としての教育課程の体系的編成の改善に取り組んでいる。歴史文化学を構成する各分野・各時代に関わる広範な内容の科目が設置されており、カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程が編成されている。
3-2-⑤	a	各専攻共に、院生による主体的な取り組みを促し、且つ、十分なコミュニケーションに基づいてアクティブ・ラーニングを始めとした授業内容の工夫や方法の検討が行われている。また、大学院全体としても情報共有を行い、各専攻の独自性を生かしつつ、大学院文学研究科としての取り組みも行っている。 「歴史文化学研究指導及び演習」において大学院生の主体的学修が行われているほか、その他の「特殊研究」「史料講読」「外書講読」「特殊研究」のいずれにおいても、大学院生による発表形式の授業が行われており、少人数形式のアクティブ・ラーニングとして位置づけられる。
	b	令和元（2019）年度、教育改善のための情報と課題を共有し、改善の具体的な内容を検討する小委員会の設置を決定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響下で、まだ小委員会開催には至っていない。また、小委員会での議論に向けて、各専攻内での検討委員会を開催し検討する予定であったが、具体的検討には至っていない。今年度は専攻内で具体的検討の予定である。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】（歴史文化学専攻） ・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 ・2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット（文学研究科）
3-2-⑤	a	・2020年度大学院シラバス
	b	・2019年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）（小委員会設置を決めたもの）

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・各学科等の教育課程の体系的編成一覧【文学研究科】（歴史文化学専攻） ・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」 ・2021年度大阪大谷大学大学院 大学院パンフレット（文学研究科）
3-2-⑤	a	・2021年度大学院シラバス
	b	・2019年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）小委員会設置について。

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	ディプロマ・ポリシー各項目の到達度を各学生の単位履修状況および成績評価から計算し、ディプロマ・サプリメントを作成した。 シラバスにおける到達目標および評価基準について、ディプロマ・ポリシーに基づいた記述が浸透し始めたため、今後はルーブリック評価を行い、授業科目ごとの質的な到達度を学生に明示することを検討する。
	b	作成したディプロマ・サプリメントを活用し、各学科・入学年度ごとに集計したものを学科にフィードバックする。また、教育・学習支援センターと連携し、PROG等の成果等を含め総合的な個々の学生評価の活用と学習指導のあり方に向けて検討する。
3-3-②	a	学修成果のうち、成績評価については、成績評価ガイドラインに基づき、科目レベルおよび学科レベルでの成績分布を学科へフィードバックしている。また、分布に偏りが見られる科目については担当教員による自己分析に基づき、第三者によって評価の妥当性を検証してきた。 ディプロマ・ポリシー各項目の達成度、授業科目レベルにおけるルーブリックを用いた質的評価を行い、各学科のカリキュラムや授業方法、学習指導等に資するものとする。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・2019年度教務委員会議事録(R1/09/11、R1/10/09、R1/11/13)
	b	・2019年度教務委員会議事録(R1/9/11、R1/10/9、R1/11/13)
3-3-②	a	・成績評価分布<2019年度協議会資料 (R1/09/08) >
		・成績評価に関する妥当性の検証<2019年度協議会資料 (R1/11/04、R1/12/02) >

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・2020年度教務委員会議事録(R3/2/10)
	b	・ディプロマサプリメント
3-3-②	a	・成績評価ガイドライン
		・協議会議事録 (R2/6/29, R2/10/5, R2/10/19)

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求
<p>教学マネジメントにおける「学修者本位の教育」の観点からも、学修成果の可視化に向けた具体的な取組について実行すること。</p>

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容： 学修成果の可視化に向けて、教育学修支援センター運営委員会のなかに「学修成果の可視化WG」を立ち上げ、文学部・教育学部・人間社会学部の学科長を中心として議論を進めている。現在、各学科においてDPに基づくルーブリックの策定を行っており、全学年の学生を対象として、ルーブリックに基づき、①学生からの自己評価ならびに②教員からの評価を行い、年度末にディプロマサプリメントとして学生に提示できるよう、準備を進めているところである。</p> <p>実行開始： 2022年 1月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	最終学年の4年次には学修成果の集大成として卒業研究を完成させ、専任教員全員でディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、学修成果に対する評価を行っている。研究成果一覧は、大阪大谷大学日本語日本文学会誌『大阪大谷国文』に掲示している。 2020年度入学生からは、アセスメントを受けた個別面談に先立ち、「アセスメントテストと日本語日本文学科ディプロマ・ポリシー(DP)の関連付けチェックシート」を配布し、学生各自が自己の診断結果の確認を行えるようにした。 令和2(2020)年度より、シラバスにおいて到達目標がより明確化された。授業後に、学生各自の到達度の検証を進められるよう、tani-WAのポートフォリオ機能活用を検討している。
	b	ICTを活用した学修指導を進めるための情報共有の場として文学部FD研修会を実施した。また、アドバイザーによるアセスメントテストに基づく学修アドバイスの結果を全専任教員で共有する場としてActiveAcademyの「個別指導記録」の利用を開始した。
3-3-②	a	本学科独自の担任制度に加え、アドバイザー制度が全学的に導入された結果、二重化していた学生対応窓口をアドバイザーに一本化し、一貫した就学指導を可能にした。また、昨年度に引き続き、遠隔方式中心の授業が行われているので、学生個人への対応手法を画一的にはせず、教員各自の工夫による学修指導・フィードバックを実施していく方向で検討中である。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・シラバス「文章表現A」「文章表現B」
	b	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16) ・アセスメントテストに基づく学修指導
3-3-②	a	・2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・『大阪大谷国文』 ・2020年9月16日日本語日本文学科学科会議配付資料
	b	・2020年9月16日日本語日本文学科学科会議議事録及び配付資料
3-3-②	a	・2021年度日本語日本文学科学習マニュアル

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	最終学年の4年次には学修成果の集大成として3年次から取り組んできた卒業論文を完成させ、全員が一人ずつ口頭試問を行い、専任教員全員でディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、学修成果に対する評価を行っている。特に優れた卒業論文を執筆した学生は、歴史文化学会において発表を行っている。研究成果一覧は、大阪大谷大学歴史文化学会誌『大阪大谷大学歴史文化研究』に掲載している。 令和2(2020)年度入学生からは、アセスメントを受けた個別面談に先立ち、「アセスメントテストと歴史文化学科ディプロマ・ポリシー(DP)の関連付けチェックシート」を配布し、学生各自が自己の診断結果の確認を行えるようにした。
	b	大学全体で取り組んでいる卒業時アンケートや学修行動調査、学生生活満足度調査等について、学科の全教員で共有し、改善に向け話し合いの場を持っている。 GPA1.5未満の学生については、ゼミ担当教員(アドバイザー)より個別指導を行いActive Academyの指導記録に記入している。 アセスメントテストについてはその結果を受けアドバイザーが面接・面談を行い、学生のジェネリックスキル向上に努め、Active Academyの指導記録に学習アドバイスの結果を記載し教員が情報共有できるようにしている。
3-3-②	a	ICTを活用した学修指導を進めるための情報共有の場として文学部FD研修会を実施した。 今年度はコロナ禍の状況により、課題の提示と提出は主にtani-WAやメールシステム Microsoft365を利用して行った。提出課題の点検・学生とのディスカッション・効果的なフィードバックを図るために、同時双方向型のMicrosoft TeamsやZoomの活用、tani-WAのコメント欄や掲示板、メールシステム Microsoft365を利用して指導を行うことで、学生の学習習熟状況の把握に勤め、学力向上への取り組みを行った。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業論文口頭試問実施一覧」 「大阪大谷大学歴史文化学会 プログラム」 『大阪大谷大学 歴史文化研究』 シラバス「卒業論文」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16) 2019年度 歴史文化学科会議 議事録 (R1/06/12、R1/09/25、R2/02/12) 学科会議資料 「学修行動調査 結果報告(歴史文化学科)」 「学生満足度調査 結果報告(歴史文化学科)」
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度 文学部合同学科会議 議事録 (R1/10/16)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業論文口頭試問実施一覧」 「大阪大谷大学歴史文化学会 プログラム」 『大阪大谷大学 歴史文化研究』 シラバス「卒業論文」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」 2020年度歴史文化学科会議 議事録と配布資料 (R2/09/16)
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度歴史文化学科会議 議事録 (R2/7/15、R2/10/07、R3/03/17) 2020年度歴史文化学科会議 議事録と配布資料 (R2/09/16)
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度 文学部合同学科会議 議事録 (R2/7/1) 「歴史文化フィールドワークA・B」「基礎ゼミ1A・1B参考図書リスト(2020年度版)」における課題添削結果

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	各ゼミ担当者が、学生のアセスメントテスト結果とtani-WAに提出されたDPチェックシートを元に、教育学部での学位授与のためには、どの項目を伸ばせばよいのか、どのようにしていきたいかを、DPと関連付けて学生自らが考えていくことを重視して面談による指導を行った。面談後に、Active Academyの指導記録にその内容を記載した。 令和2年度は免許資格取得科目の成績等で数値的評価をすることを課題としたが、学生間の比較には使えるが、一人の学生の成長を見る指標としては使えないことがわかったため、令和3年度は3回生のアセスメントテストの結果をふまえ、3年間の成長を確認し、それに基づいて個人指導を行いたい。同時に、正課科目の成績の数値的評価を学生の成長の指標としてどのように使えるかについての検討を進めて行きたい。
	b	学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、及び、学修行動調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査については、例年と同様に実施された。その結果を各専攻会議及び教授会で意見交換して学修成果を点検・評価し、令和3(2021)年度への改善策を検討した。
3-3-②	a	GPA制度が導入され、数値により可視化されていることから、学業不振と考えられる学生に対しては、ゼミ担当教員が個別に面談し、学修成果をフィードバックするとともに、改善策等について助言している。一部ではあるが、教員採用試験合格者のGPAを分析し、学修支援方法の点検、改善に利用している。今後、学部全体の取り組みとして推進する。学生の指導記録は、全専攻ともActive Academyの指導記録に統一して記録している。学生にアセスメントテストや学修行動調査を実施し、学修指導の改善へのフィードバックを各ゼミ担当によって行った。令和3(2021)年度も同様に、学生へのフィードバックと記録を全員に実施したい。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	なし
	b	・IR委員会による学修行動調査の結果 ・教育・学修支援センターによるアセスメントテストの結果 ・2019年度教授会議事録(R1/06/05)(アセスメントテスト)
3-3-②	a	・Active Academy内の学生カルテ

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・Active Academyの指導記録のカルテ
	b	・IR委員会による学修行動調査の結果 ・教育・学修支援センターによるアセスメントテストの結果 ・2020年度教授会議事録・資料(R2/09/02)(アセスメントテスト) ・2020年度教授会議事録(R2/10/14)(アセスメントテスト)
3-3-②	a	・Active Academy内の学生カルテ

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	<p>4年間の学修の集大成として位置づけられる卒業研究については、これまでも、①ディプロマ・ポリシーを参照し卒業研究の成果を総合的に評価する、②とくに優秀な研究を行なうことができた学生には学科内に設けられた学会で発表機会を付与する等してきた。そして、令和2(2020)年度からは、これら①②に加え、③ディプロマ・ポリシーをルーブリック化し、学生本人による自己評価、教員による他者評価を行なうことで、学修成果をより明確に認識できるようにする、④2~3つのゼミが合同で卒論発表会の開催し、卒論指導担当教員以外の教員が学生の卒論を論評し、より多角的・客観的に4年間の学びを総括しやすくするという取組を開始した。今後は、このような取組を、数年かけて、多くのゼミで展開し、ゆくゆくは学科の取組として定着させるという目標を立てた。</p> <p>結果、令和2(2020)年度には、2つのゼミが参加して、ルーブリックにもとづく4年間の学修成果のふりかえりを行なうとともに、異なるゼミが合同で卒論発表会を開催し、4年間の学びの集大成である卒業研究の質の確保・確認につとめた。</p> <p>令和3(2021)年度以降も、この計画を継続し、上述の③④に取り組むゼミの数を増やしていく。</p> <p>なお、ディプロマ・ポリシーに関する、学生の理解促進については、上述のような4年次の卒業研究にかかる取組に限定される必要はなく、在学中、4年間をつうじで行なわれるべきことである。そのため、本学部においては、令和3(2021)年度には、1年次必修科目である「人間と社会A」において、学生に対して、ディプロマ・ポリシーとその概要について紹介した。また、それが具体的に人間と社会の課題とどのようにつながっているのかを解説した。今後も、このような取組を継続していく予定である。</p>
	b	<p>本学科では、全学的な取組である卒業時アンケートや学生生活満足度調査、学習行動調査、アセスメントテスト等に加えて、適宜、本学科独自の取組である資格取得状況の確認が行われてきたが、これらの結果については全専任教員で共有・検討する機会を設けてきている。本学科としては、今後も継続して、同様のデータ共有・検討の機会を設けていく。</p>
3-3-②	a	<p>本学科では、上述(3-3-①b)のように、学内の異なる部署からの学生データを一元化し、これを学科で共有・検討してきた。その結果、たとえば、成績優秀な学生をキャリアセンター主催「キャリア開拓塾」への入塾につなげるなど、個別学生の指導に活かしてきた。</p> <p>令和2(2020)年度も、同様の取組を行なってきた結果、「キャリア開拓塾」に入塾する人間社会学科生が7人(入塾者全体の32%)となるなど、学修成果の点検結果を具体的な学生指導に活かすことができた。</p> <p>令和3(2021)年度以降も、引き続き、キャリアセンター主催の選抜型プログラムへの接続支援や、企業からの指名型採用選考への学内候補者選定等を、人間社会学部キャリア開発支援室を通して、図っていく。</p>

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ「学会年次大会」 2019年度教授会議事録 (R1/05/08) (教員の授業評価にかかる授業映像撮影) 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (後期授業公開について)
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (卒業時アンケート・学習行動調査) 2019年度教授会議事録 (R1/09/25) (学習行動調査の把握・学習成果の把握) 2019年度教授会議事録 (R2/01/08) (卒業時アンケート・学生満足度調査) 2019年度教授会議事録 (R2/03/04) (アセスメントテスト) 2019年度教授会議事録 (R1/10/09) (来年度以降の私立大学等改革総合支援事業の取組みについて) 人間社会学部資格取得状況 平成27~30年度
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録 (R1/05/08) (アセスメントテスト説明会) 学生ポートオフォリオ (指導記録) 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (キャリア開拓塾 塾生募集) キャリア開拓塾 個別面談 2019年度学生分析資料(人社3回生)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none">・「2020年度 人間社会学会 年次大会」(tani-WAに掲載した告知文)・2021年度人間社会学科会議議事録 (R3/04/14)・2021年度「人間と社会A」授業内資料 (R3/04/28)
	b	<ul style="list-style-type: none">・2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/05/27) (卒業時アンケート)・2020年度教授会議事録 (R2/07/01) (アセスメントテスト解説会・卒業時アンケート)・2020年度教授会議事録 (R2/09/02) (新入生アンケート・学習行動調査)・2020年度教授会議事録 (R2/09/16) (PROGの個人面談)・2020年度教授会議事録 (R2/10/07) (学修行動調査)・2020年度教授会議事録 (R3/01/13) (学生満足度調査)・2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/07/15) (資格取得状況)
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none">・2020年度教授会議事録 (R2/05/13) (アセスメントテストの受験)・2021年度教授会議事録 (R3/04/14) (キャリア開拓塾 塾生募集)・2020年度人間社会学科会議議事録 (R2/10/07) (GPA2.8以上の学生個別指導)

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	初年次の「スポーツ健康学」では、オムニバス形式で各教員の専門分野の概論やスポーツに特化したキャリア形成の講義を実施し、その評価は全教員で共有・点検している。しかし、学科全体として学修成果を点検・評価し、学生にフィードバックする体制は改善されていない。今後、FD委員を中心に、学内の学習支援システムを活用した独自の体制を構築する。
	b	すでに、卒業時アンケート・学生生活満足度調査・学習行動調査など全学的な調査結果を、学科の全教員で共有し、改善に向けて話し合いの場を持っている。また、大学のGPA制度を活用し、GPA1.5を下回る学生には、ゼミ担当者からのきめ細かい個別指導を行っている。さらに学科独自の取組みとして、教員やスポーツ指導者を志望する学生のためのサークルを立ち上げ、学生の主体性を引き出しながら専門性を向上させる指導を行っている。
3-3-②	a	3-3-①bに記述したような全学的な調査結果の活用等に加え、学科独自では、スポーツ課外活動を行っている学生の活動評価として、各競技団体の年間競技成績を共有すると共に、各指導者がそれぞれの学生のGPAを管理し、指導対象学生に関しては、学習時間の提供・指導を行っている。今後は、指導内容について各競技団体指導者により工夫し実践している。 入学前教育では大学のweb教育システムを活用した履歴の収集を行っている。さらに入学後はジェネリックスキルを多角的に測定・育成するシステムPROGを導入し、年2回のアセスメントテスト結果を元にゼミの教員が個別の面談指導を行っている。又、今後の入学前教育を充実させるための議論を進めているところである。 スポーツ指導方法演習では、地域のスポーツ競技団体等を指導対象とし、指導案の作成・指導実施・指導内容報告書作成を通じて、学修成果の把握を行っている。その成果を複数の担当教員が共有し、次年度の指導改善につなげている。 また、社会研究実習では、エントリーシート作成（明確な目的設定）、実習実施、実習報告書作成を行っている。事前事後のアセスメントシートの分析により、学びを細分化し、複数の担当教員で検討することで、指導改善を行っている。 今後は、学科全体としての学習成果の点検・評価体制を構築したうえで、フィードバックの仕組みについても強化を図る。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得状況(スポ2016~2019) シラバス「スポーツ健康学」
	b	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度教授会議事録 (R1/09/18) (卒業時アンケート・学習行動調査結果) 2019年度教授会議事録 (R2/01/08) (卒業時アンケート・学生満足度調査) 2019年度教授会議事録 (R1/09/25) (学生の学修時間・学習行動の把握) 資格取得の状況(スポ2016~2019) 指導記録(学生個人) 大学ホームページ「保健体育サークルPETS」 PETS活動日時 PETS大学案内 健康運動指導士取得サークル(健康運動実践指導者問題集p22-23) 健康運動指導士取得サークル(健康運動実践指導者養成用テキストp21、p22、p25、p30)
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> PSSP規約20180928 PSSP年間スケジュール 2019年度スポーツ健康学科会議 (R1/05/08) (入学前教育実施状況) 2019年度合同学科会議 (R1/12/18) (学長裁量経費PJによるPROG実施等について) PROG強化書 PROGアセスメントテスト(PROGを用いた学修成果の振り返り) PROG(スポ健)学修指導 PROG(スポ健)教員からのアドバイス PROG全体傾向報告書(2019) 2019年度教授会議事録 (R2/03/04) (PROGアセスメントテスト) シラバス「スポーツ指導方法演習」 スポーツ指導方法演習(サッカー)指導案①・② スポーツ指導方法演習報告書_サッカー1・2 シラバス「社会研究実習Ⅱ」 社会研究実習年間予定表_200226 エントリーシート(社会研究実習Ⅱ) 2019年度 社会研究実習アセスメントシート報告書

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	2020年度と同様
	b	2020年度と同様
3-3-②	a	データベースの構築については、2020年度においては薬学部内での情報管理に関する申し合わせを定め、一部のデータを入試広報課および教務課から預かり、データベースの作成を開始している。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会 (R2/02/12) 薬学部教務委員会議事録 (R2/01/22) 報告事項1, 2 ・2019年度教授会 (R2/03/11) 薬学部教務委員会議事録 (R2/03/04) 報告事項2
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項17 ・2019年度教授会議事録 (R1/09/18) 報告事項16 ・2019年度教授会議事録 (R1/09/25) 報告事項3 ・薬学部学習マニュアル (p273~289) ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項16
3-3-②	a	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度教授会議事録 (R1/09/04) 報告事項16 ・教員支援システム (見本)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	同上
	b	同上
3-3-②	a	・入試情報及び成績情報管理に関する申し合わせ

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
4-2-②	a	新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えないなか、令和3(2021)年度も、同僚教員による授業公開など実施できない取り組みもある。ただし、遠隔授業の方法や取り組みについては、令和2(2020)年度に講演会を実施しているが、令和3(2021)年度も引き続き、教員の要望も聞き、検討していく。令和3(2021)年度からは、FDに関する業務を教育・学修支援センターへ移管に向けて、学長へも逐次報告しながら、教育・学修支援センターと連携し、教員に向けての学修支援・FD体制の構築に向けて検討を進める。 授業評価アンケートについては、令和2(2020)年度と同様、Webによる実施を継続する。 また、令和2(2020)年度の成績評価の妥当性の検証は、令和3(2021)年度5月以降に協議会において行う。 ティーチングポートフォリオについては、以前実施したワークショップのアンケートに基づき、今後のワークショップを検討する。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
4-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度FD部会議事録 (R1/04/17、R1/05/22、R1/06/12、R1/07/17、R1/09/18、R1/10/09、R1/11/20、R1/12/18) FD研修会・講演会等の案内 授業参観の案内 2019年度大阪大谷大学協議会議事録 (R1/09/18、R1/11/04、R1/12/02)

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
4-2-②	a	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度FD部会議事録 (R2/05/27、R2/06/10、R2/07/15、R2/10/21、R2/11/18、R3/1/20、R3/2/17) FD研修会・講演会等の案内 ティーチングポートフォリオアンケート結果

II. 学長からの改善要求

<2020年度>

学長からの改善要求
<p>人員等の体制が整うことを条件として、FDに関する業務を教育・学修支援センターへ移管し、FDの課題の改善や充実を図ること。 なお、FD業務の引継ぎ状況等については、適宜、学長に報告すること。</p>

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

<2020年度>

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容： 現在、授業科目レベルでのFDは充実しているような状況であるが、カリキュラムレベルのFDがほとんど行われていない状況にある。授業改善だけでなく、教学マネジメント体制の基盤となるようなFDの内容を、教育・学修支援センターとともに再検討し、学長への報告も行いながら業務移管を行う準備を進める。また、各学部単位でのFD実施についても促しを行っていく。</p> <p>実行開始：2021年4月</p>

II. 学長からの改善要求

<2021年度>

学長からの改善要求

FD活動について、「教員の人材育成の目標・方針の策定」又は「教員に求める能力の明確化」を行った上で、年次計画を立てて実施すること。

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

<2021年度>

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。

検討内容：

FD部会において、今年度後期より新任教員の授業評価や同僚教員による授業公開を実施する体制を整え実施することが決定し、現在日程調整を行っている。授業評価アンケートの評価に加え、受講公開後のアンケート調査のデータを教育・学修支援センターと連携しながら分析し、「教員の人材育成の目標・方針の策定」又は「教員に求める能力の明確化」を行い、FD部会にて次年度に向けて、年次計画を検討する。

実行開始：2022年 4月

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程
	b	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程
	c	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・大阪大谷大学内部質保証に関する規程

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	・2020年度と同様。
	b	・2020年度と同様。
	c	・2020年度と同様。

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

<2021年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-2-①	a	2020年度と同様。
	b	2020年度と同様。
	c	2020年度と同様。
6-2-②	a	令和3（2021）年度に、IRの専門教職員が配置され、IRなどを活用した調査・データの収集と分析が行える体制は整備された。

3 エビデンス資料

<2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-2-①	a	・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」
	b	・大阪大谷大学内部質保証に関する規程 ・自己点検評価項目及び実施体制
	c	・令和元年度自己点検評価書 ・大学ホームページ「大学評価」
6-2-②	a	・大阪大谷大学教育・学修支援センター規程

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-2-①	a	・2020年度と同様。
	b	・2020年度と同様。
	c	・2020年度と同様。
6-2-②	a	・大阪大谷大学教育・学修支援センター規程 ・大学ホームページ：教育学部教育学科の教員一覧

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
<p>検討内容：</p> <p>実行開始： 年 月</p>

3 エビデンス資料 <2020年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪大谷大学内部質保証に関する方針」 ・「改善・向上方策」に基づく今後の対応（改善計画） ・2020年度内部質保証推進委員会議事録（R2.04.20）
	b	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度大学自己点検・評価委員会議事録（R2.03.16） ・VISION2025 2019年度（単年度）の取組結果達成状況

<2021年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-3-①	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「学長からの改善要求」への対応状況 ・2020年度内部質保証推進委員会議事録（R3.03.15） ・2020年度大学自己点検・評価委員会議事録（R3.03.15）
	b	6-3-①-aと同じ

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月